

海外留学の長期的なインパクト調査

留学後のキャリアと人生に対する満足度に焦点を当てて

留学生教育学会 第20回年次大会
2015年8月29日（土） 於：日本電子専門学校

秋庭 裕子 （一橋大学）
新見 有紀子 （一橋大学）
芦沢 真五 （東洋大学）
横田 雅弘 （明治大学）

本発表のアウトライン

①研究の概要

②海外留学経験者を対象としたオンライン調査の結果分析

- 集計結果と回答者の属性
- 大学レベル（学位取得と単位取得）の留学経験者の結果分析
 - ・ 留学中の苦勞
 - ・ 能力の向上
 - ・ キャリア・採用への影響
 - ・ 人生、仕事等に対する満足度

③まとめと今後の課題

研究の概要

背景

- ・ 留学生受入から学生派遣への政策転換
- ・ グローバル社会で活躍できる人材の育成
- ・ 多様なプログラムの開発、留学の教育的効果の可視化と測定に対するニーズの高まり

目的

- ・ 海外留学が留学経験者の留学後のキャリア形成や人生に与える中長期的なインパクトを明らかにする。
- ・ グローバル人材の育成という喫緊の課題に取り組む大学（国際教育のカリキュラム改革等）と企業（人材育成とキャリア形成）に対して有益な示唆を提供する。

研究の全体像

外部資金の獲得

- 2013-15年度 文部科学省科学研究費基盤研究A「グローバル人材育成と留学の長期的なインパクトに関する研究」

(研究代表者 横田雅弘 <明治大学>)

- 雇用者を対象としたグローバル人材に関する調査
- 文献調査 (留学のインパクトに関する論文・書籍)
- 3か月以上の留学経験者の社会人を対象とした回顧的追跡調査

本報告での分析対象

- 3か月以上の留学経験者を対象とした回顧的追跡調査
(オンラインによる質問紙調査)
 - 2014年12月～2015年5月上旬まで回答を受付
 - 総回収数：5,227件 • 有効回答数：4,489件（確定値）
- その中でも、大学学部レベルでの留学経験者について分析。
(分析対象の抽出条件の詳細は次のスライドにて。)

本報告で用いる学部レベルの海外留学 データ分析用セグメント

		男性	女性	30歳代	20歳代		
大学 留学 n=1,870	1. 学士留学 (20~30歳代)	卒業を目的とした私費・奨学金留学 (学士)を3年以上、20~30歳限定		82	103	145	40
	2. 単位留学 (20~30歳代、私費)	卒業を目的としない(単位)私費留学 を3~6か月および6か月~1年未満、20 ~30歳限定		109	173	166	116
	3. 単位留学 (20~30歳代、奨学金)	卒業を目的としない(単位)奨学金留 学を3~6か月および6か月~1年未満、 20~30歳限定		86	92	98	80
			277	368	409	236	

- 学部（学位取得目的・単位取得目的）レベルの留学
 - 学位取得目的：留学期間3年以上に限定
 - 単位取得目的：3ヶ月以上1年未満に限定
 - 単位取得目的の留学は、奨学金受給者と私費を区別
- 20代、30代の回答者

計645件

本報告における リサーチクエスチョン

留学中の苦勞・留学のインパクトに関する自己評価において、学部レベルでの海外留学経験者（20-30代の回答者）は、

- ①留学形態別（学位取得目的、又は、単位取得目的）
- ②男女別

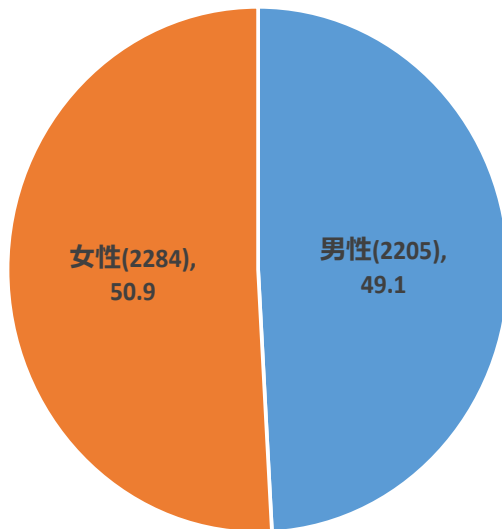
でどのような傾向の違いが見られるのだろうか。

回答者属性

年代（現在の年齢）

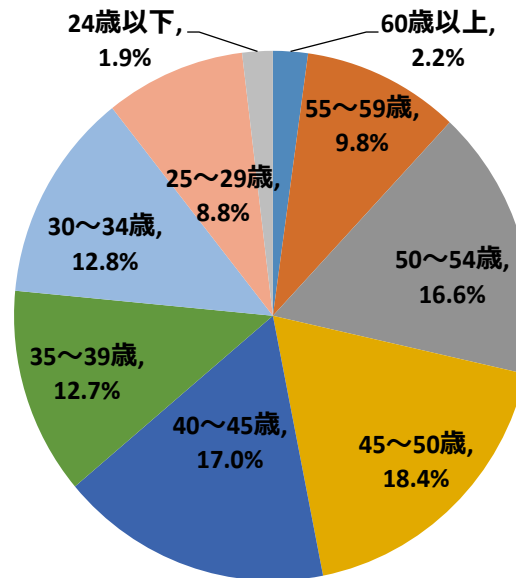
性別

n=4,489



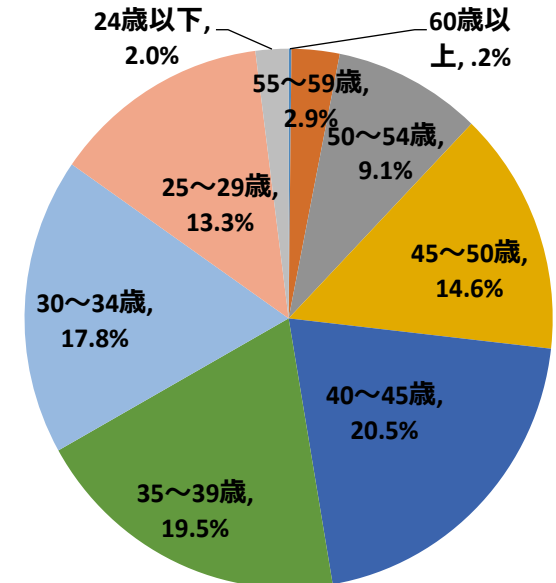
男性

n=2,205



女性

n=2,284



留学への傾向

留学の留学先学校種別 (留学回数別：1回留学・2回以上の留学)

n=4,489

	高校	大学	大学院 (修士)	大学院 (博士)	語学学校	その他	合計
全留学回数 (D)	238	2,079	568	229	1,706	390	5,210
1回の留学経験	74 2.1%	1,522 42.7%	429 12.0%	129 3.6%	1,205 33.8%	207 5.8%	3,566 100%
2回以上の留学経験 * (A)	164 10.0%	557 33.9%	139 8.5%	100 6.1%	501 30.5%	183 11.1%	1,644 100%
2回以上の留学経験 の中で最も重要な 留学先学校種別と 回答した数 (B)	69 7.5%	348 37.7%	139 15.1%	73 7.9%	186 20.2%	108 11.7%	923 100%
B/A	42.1%	62.5%	100%	73.0%	37.1%	59.0%	56.1%
2回以上の留学経験 の中で2回目以降 の留学を最も重要 と回答した数 (C)	3	242	123	66	77	86	597
C/B	4.3%	69.5%	88.5%	90.4%	41.4%	79.6%	64.7%

1回の留学経験者

- 3,566人で、全回答者数 (4,489人) の79.4%
- 大学の留学が最も多く42.7%、次いで語学学校が33.8%

2回以上の留学経験者

- 923人で、全回答者数の20.6%
- より上位の留学先学校種別において、最も重要な留学とする回答の割合が高い。

*2回以上の留学経験の内訳(留学回数別)

	2回	3回	4回	5回以上	合計
留学経験者数	729	164	25	5	923

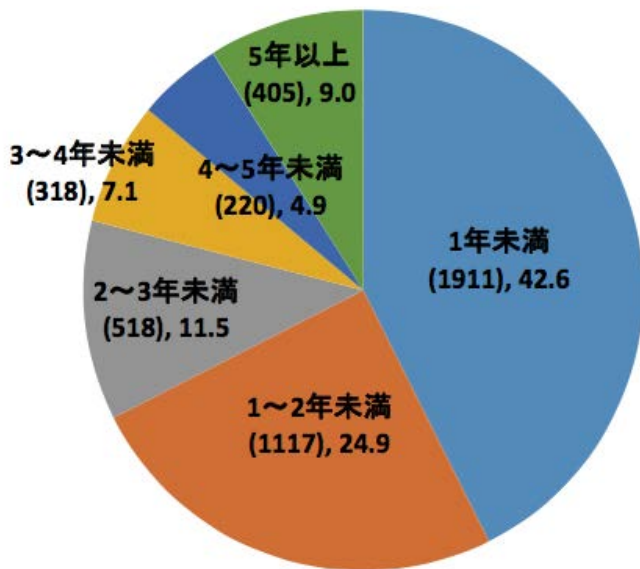
留学経験が複数回ある場合、回答者にとって最も重要な海外留学経験についての回答となっている。

留学への傾向

留学期間 (合計)

留学期間は合計でも1年未満が最も多く43%を占める。

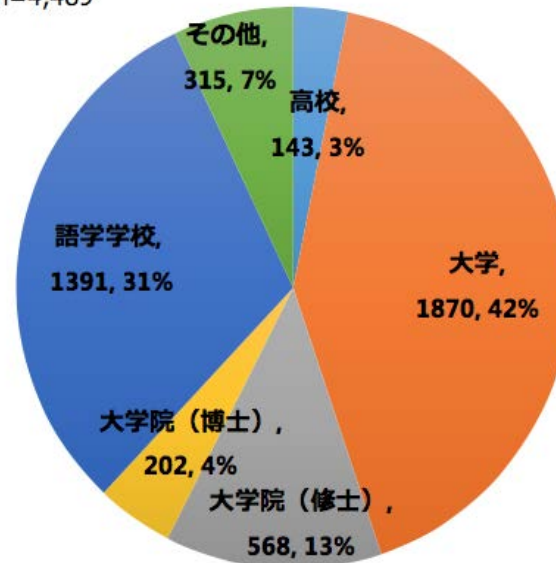
n=4,489



留学先学校種別

大学(42%)と語学学校(31%)の留学で7割。

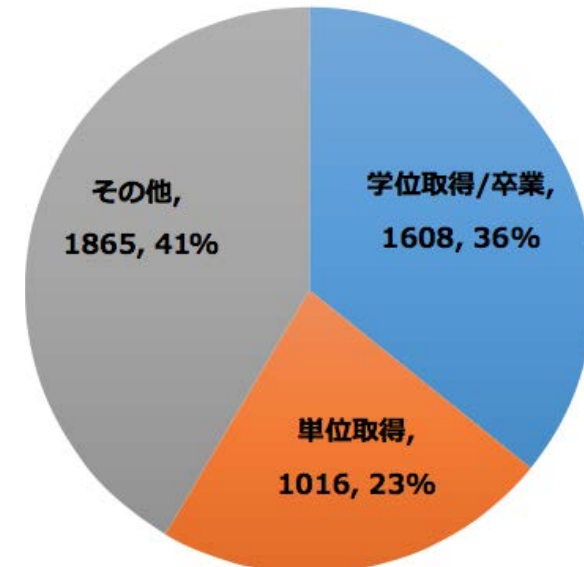
n=4,489



留学形態

学位取得/卒業を目的とした留学は36%

n=4,489



質問項目：留学中の経験

留学中に苦勞した経験	自己評価スケール
<p>この海外留学中に苦勞した経験についてお伺いします。以下のそれぞれについて、どの程度苦勞したか、当てはまるものを一つ選んでください。</p> <p>1、異文化への適応 2、外国語能力の習得・運用</p> <p>など10項目</p>	<p>4（とても苦勞した）～ 1（全く苦勞しなかった）</p>

その他、授業に関する経験・授業以外に関する経験についても調査したが、本報告では含めない。

質問項目：留学のインパクト

分類	質問	自己（主観的）評価スケール	項目数
能力	留学の結果、次のような能力が向上したと思いますか。	4（つよくそう思う）～ 1（全くそう思わない）	18
キャリア	海外留学が、キャリアにどの程度影響を与えたと思いますか。	4（つよくそう思う）～ 1（全くそう思わない）	6
	海外留学経験に関することが、採用の際にどの程度評価されたと思いますか。	4（つよくそう思う）～ 1（全くそう思わない）	4
	現在の職場における同年代の留学未経験者と比較して、キャリアの処遇上でどのような違いがありますか。	5（かなり高い）～ 1（かなり低い）	7
人生の満足度	以下のそれぞれの項目について当てはまるものを一つ選んでください。	4（つよくそう思う）～ 1（全くそう思わない）	6

その他、言語レベル、態度・価値観、意識・行動の変化についても調査したが、本報告では含めない。

質問項目：留学経験（中間ファクター）

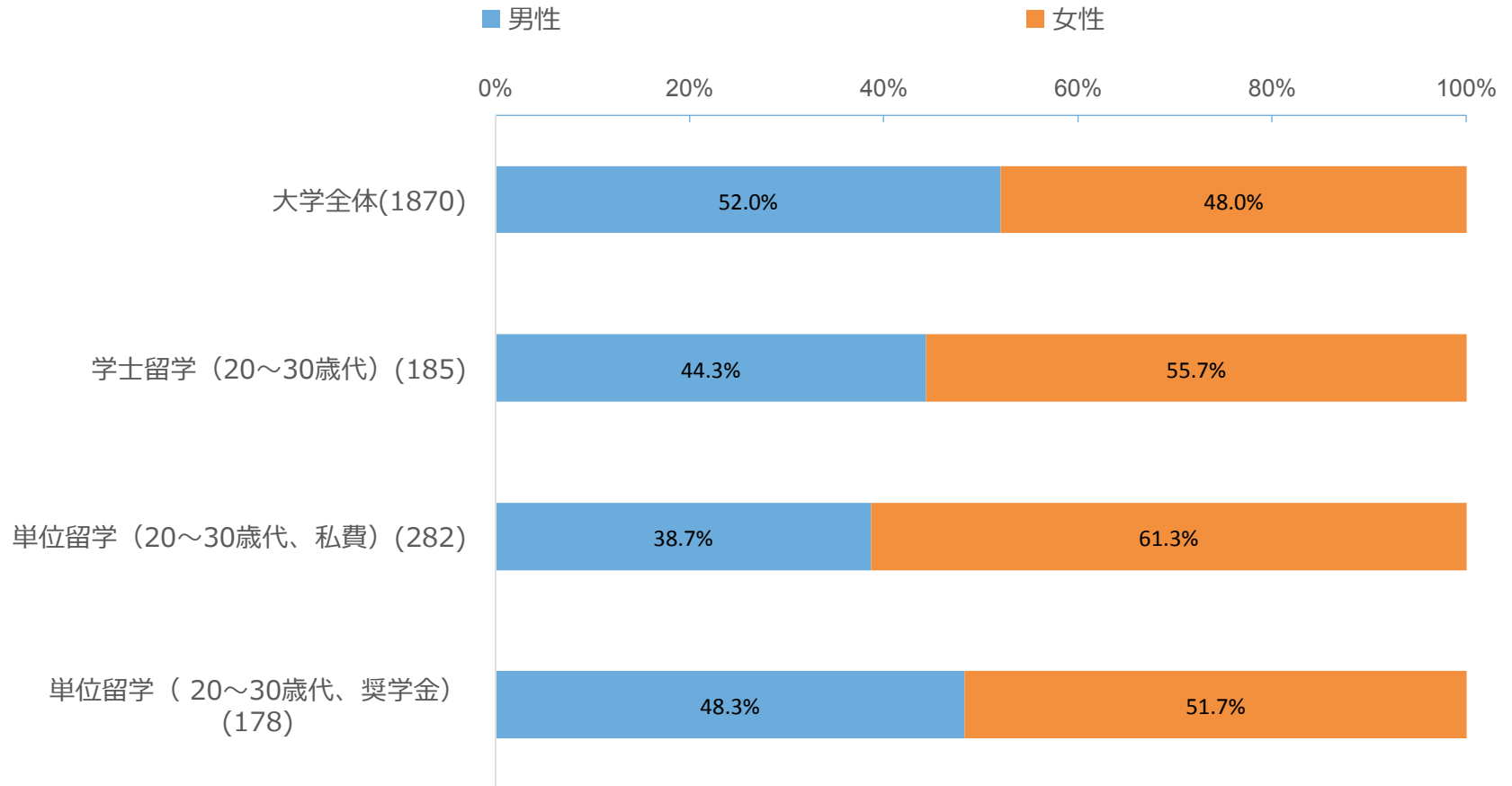
分類	質問項目
授業に関する活動	<p>この海外留学中の授業に関する活動についてお伺いします。以下のそれぞれについて当てはまるものを一つ選んでください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、授業で積極的に発言した 2、先生と積極的に交流した、など5項目 <p>自己評価スケール：4（つよくそう思う）－1（全くそう思わない）</p>
留学中の苦勞	<p>この海外留学中に苦勞した経験についてお伺いします。以下のそれぞれについて、どの程度苦勞したか、当てはまるものを一つ選んでください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、異文化への適応 2、外国語能力の習得・運用、など10項目 <p>自己評価スケール：4（とても苦勞した）－1（全く苦勞しなかった）</p>
授業以外の活動	<p>この海外留学中の授業以外のことについてお伺いします。以下のそれぞれについて当てはまるものを一つ選んでください。当てはまらない場合は、「当てはまらない」を選んでください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、学生宿舎や寮で積極的に交流した 2、ホームステイ先で積極的に交流した、など15項目 <p>自己評価スケール：4（つよくそう思う）－1（全くそう思わない） 0（あてはまらない）</p>

質問項目：留学のインパクト

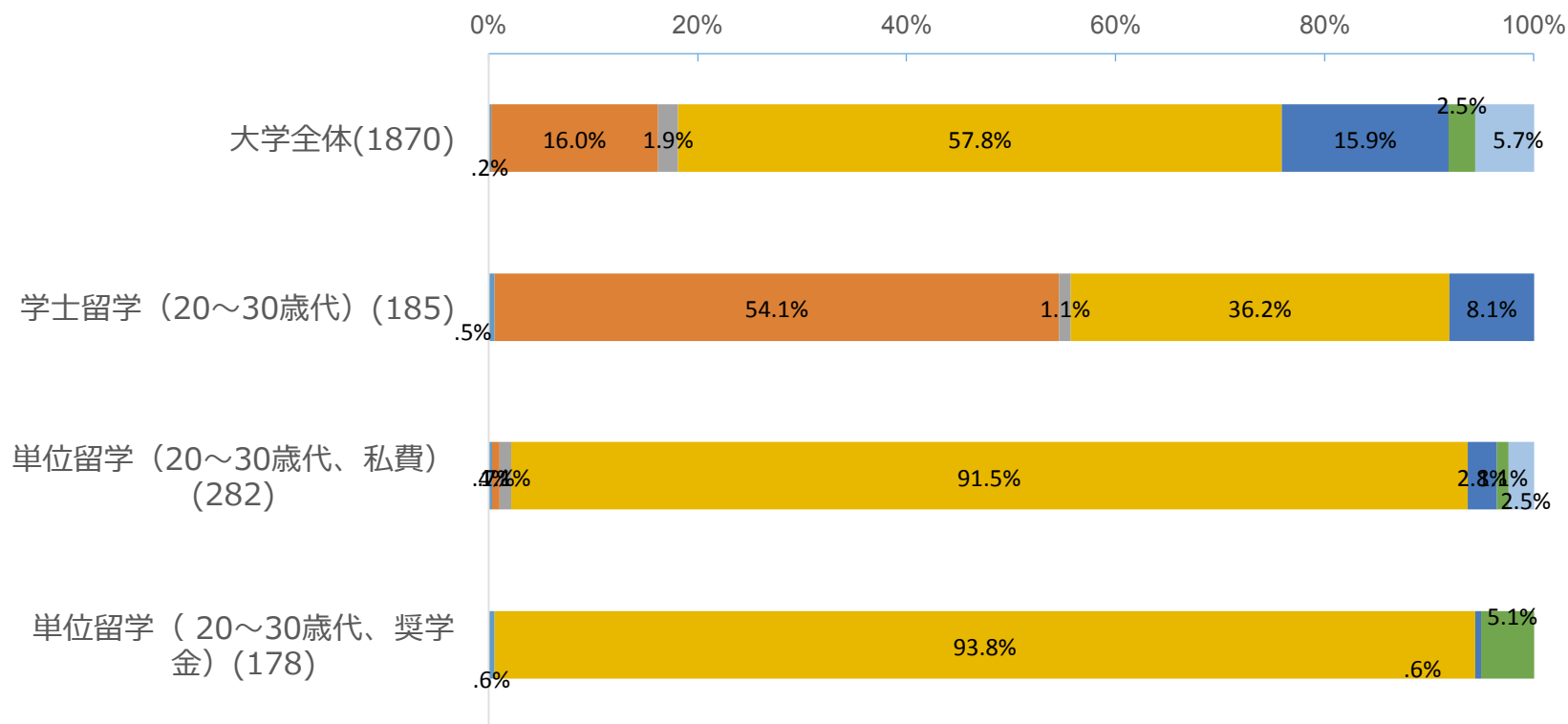
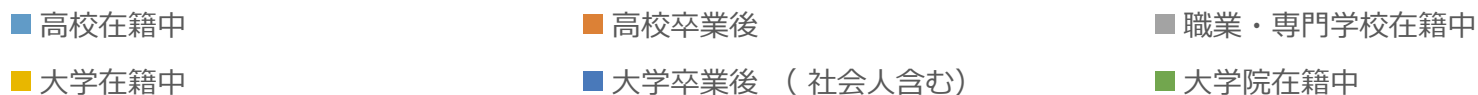
分類	質問	自己（主観的）評価スケール	項目数
能力	留学の結果、次のような能力が向上したと思いますか。	4（つよくそう思う）－1（全くそう思わない）	18
言語	現在、日本語以外に使える言語とそのレベルは。また、現在の仕事で、どの程度使っているかもお答えください。	言語レベル 1（ネイティブ並） 2（仕事上十分なコミュニケーションができる） 3（仕事上ある程度コミュニケーションができる） 4（日常会話程度） 使用頻度 1（かなり使っている）－4（全く）使っていない	2
キャリア	海外留学が、キャリアにどの程度影響を与えたと思いますか。	4（つよくそう思う）－1（全くそう思わない）	6
	海外留学経験に関することが、採用の際にどの程度評価されたと思いますか。	4（つよくそう思う）－1（全くそう思わない）	4
	現在の職場における同年代の留学未経験者と比較して、キャリアの処遇上でどのような違いがありますか。	5（かなり高い）－1（かなり低い）	7
意識・行動	海外留学の結果、次のような意識がどの程度高まったと思いますか。	4（つよくそう思う）－1（全くそう思わない）	16
	海外留学の結果、次のような行動へのかかわりがどの程度多くなったと思いますか。	4（よく参加している）－1（全く参加していない）	8
態度・価値	以下のそれぞれの項目について当てはまるものを一つ選んでください。	4（Aに近い）－1（Bに近い）	8
人生の満足度	以下のそれぞれの項目について当てはまるものを一つ選んでください。	4（つよくそう思う）－1（全くそう思わない）	6

留学形態別 回答者属性 (概略)

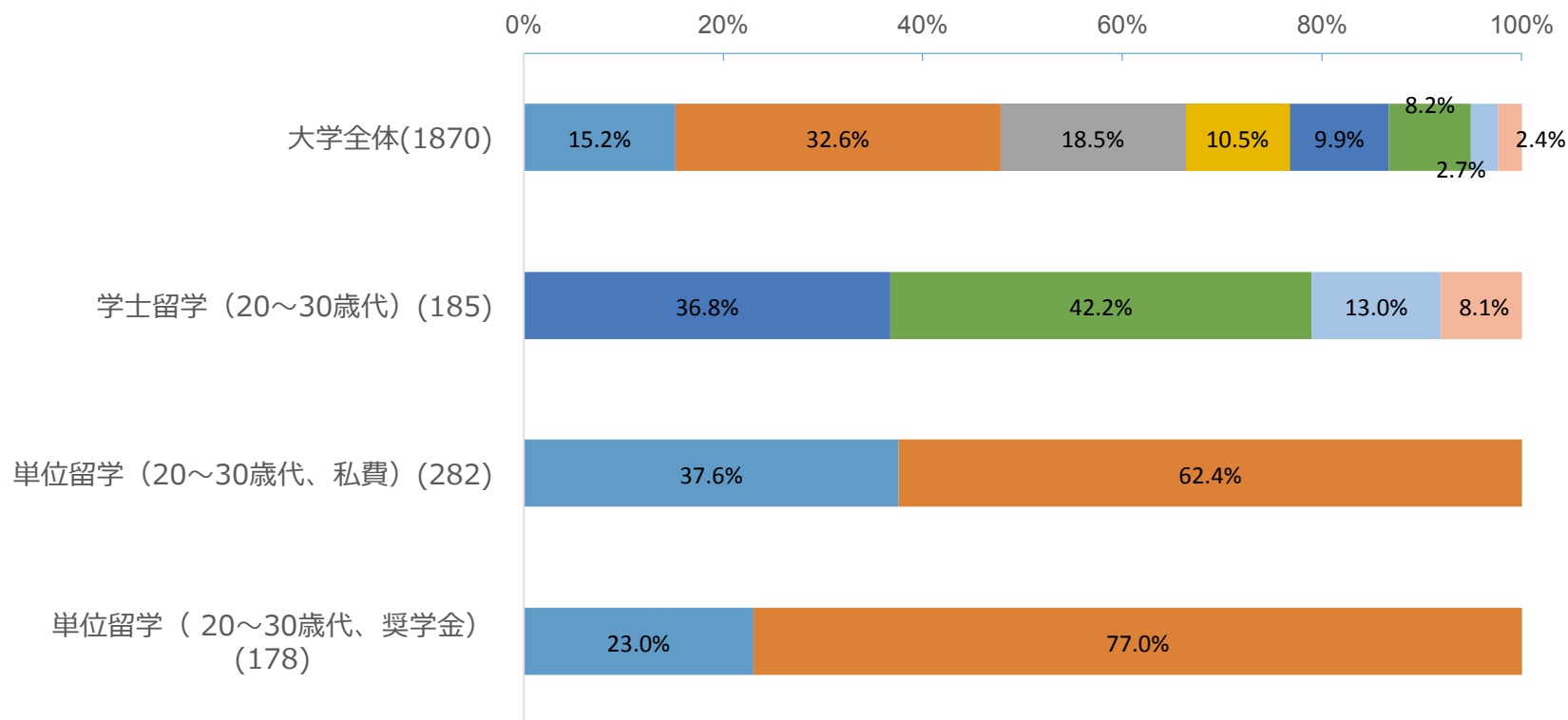
大学レベルの留学：男女別



大学レベルの留学：留学の時期



大学レベルの留学：在籍期間



- 学位取得：留学期間3年以上に限定
- 単位取得：3ヶ月以上1年未満に限定

本報告で用いる学部レベルの海外留学 データ分析用セグメント

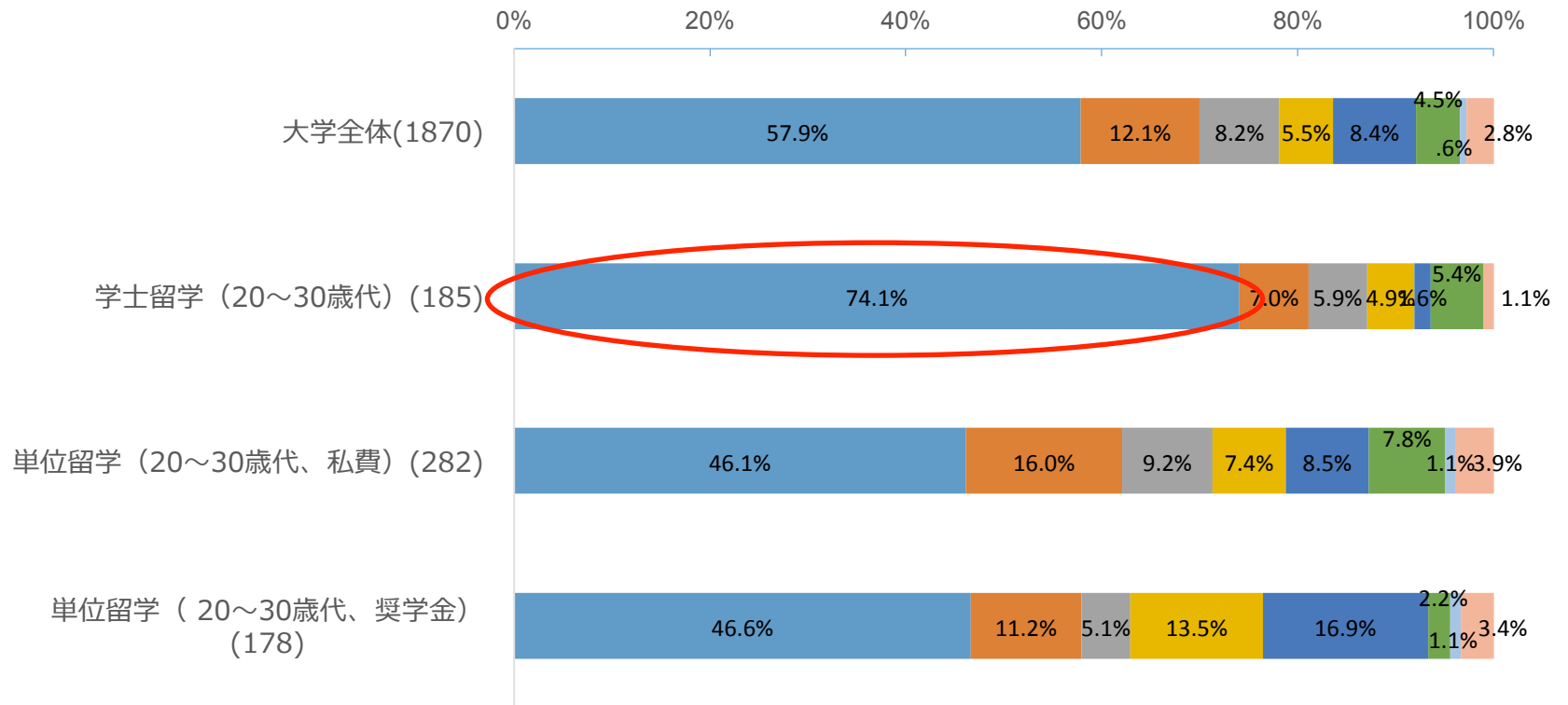
- 学部（学位取得目的・単位取得目的）レベルの留学
 - 学位取得目的：留学期間3年以上に限定
 - 単位取得目的：3ヶ月以上1年未満に限定
 - 単位取得目的の留学は、奨学金受給者と私費を区別
- 20代、30代の回答者 **計645件**

大学
留学
n=1,870

		男性	女性	30歳代	20歳代
1. 学士留学 (20~30歳代)	卒業を目的とした 私費・奨学金留学 (学士)を3年以上、 20~30歳限定	82	103	145	40
2. 単位留学 (20~30歳代、私費)	卒業を目的としない(単位) 私費留学 を3~6か月および6か月~1年未満、 20~30歳限定	109	173	166	116
3. 単位留学 (20~30歳代、奨学金)	卒業を目的としない(単位) 奨学金留 学 を3~6か月および6か月~1年未満、 20~30歳限定	86	92	98	80
		277	368	409	236

留学先国 留学形態別

- アメリカ
- オセアニア
- 中国・韓国・台湾
- ドイツ・フランスなどEU非英語圏
- イギリスなどEU英語圏
- カナダなど北中米英語圏（米以外）

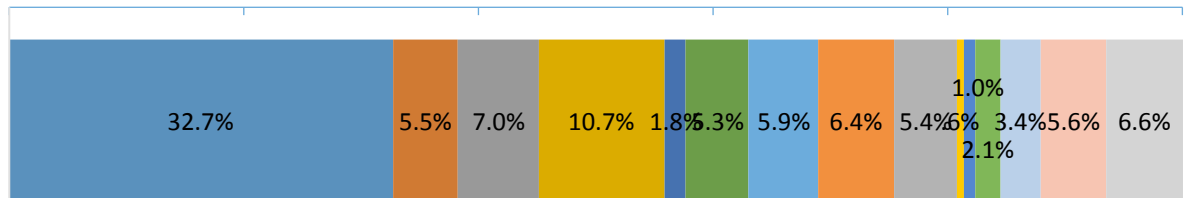


専門分野 留学形態別

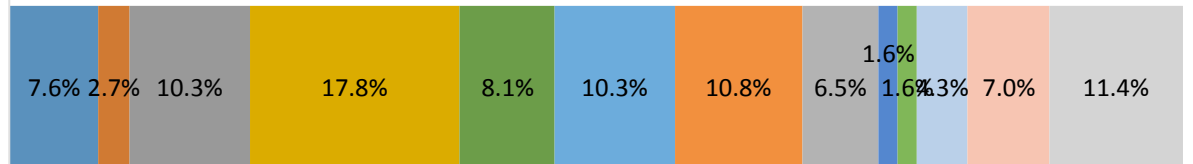
- 語学・言語学
- 法学
- 教養・リベラルアーツ
- 歴史・文学・哲学
- 政治学・行政学・国際関係
- 看護学・福祉学
- 経済学
- 教育学・社会学・心理学
- スポーツ科学
- 経営学・商学
- 芸術
- 医学

0% 20% 40% 60% 80% 100%

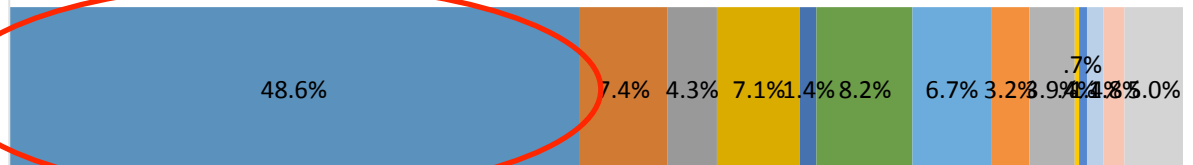
大学全体(1870)



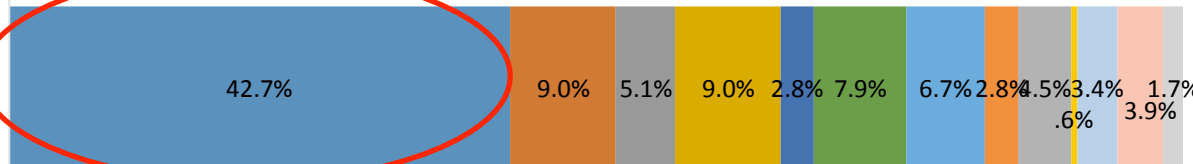
学士留学 (20~30歳代) (185)



単位留学 (20~30歳代、私費) (282)

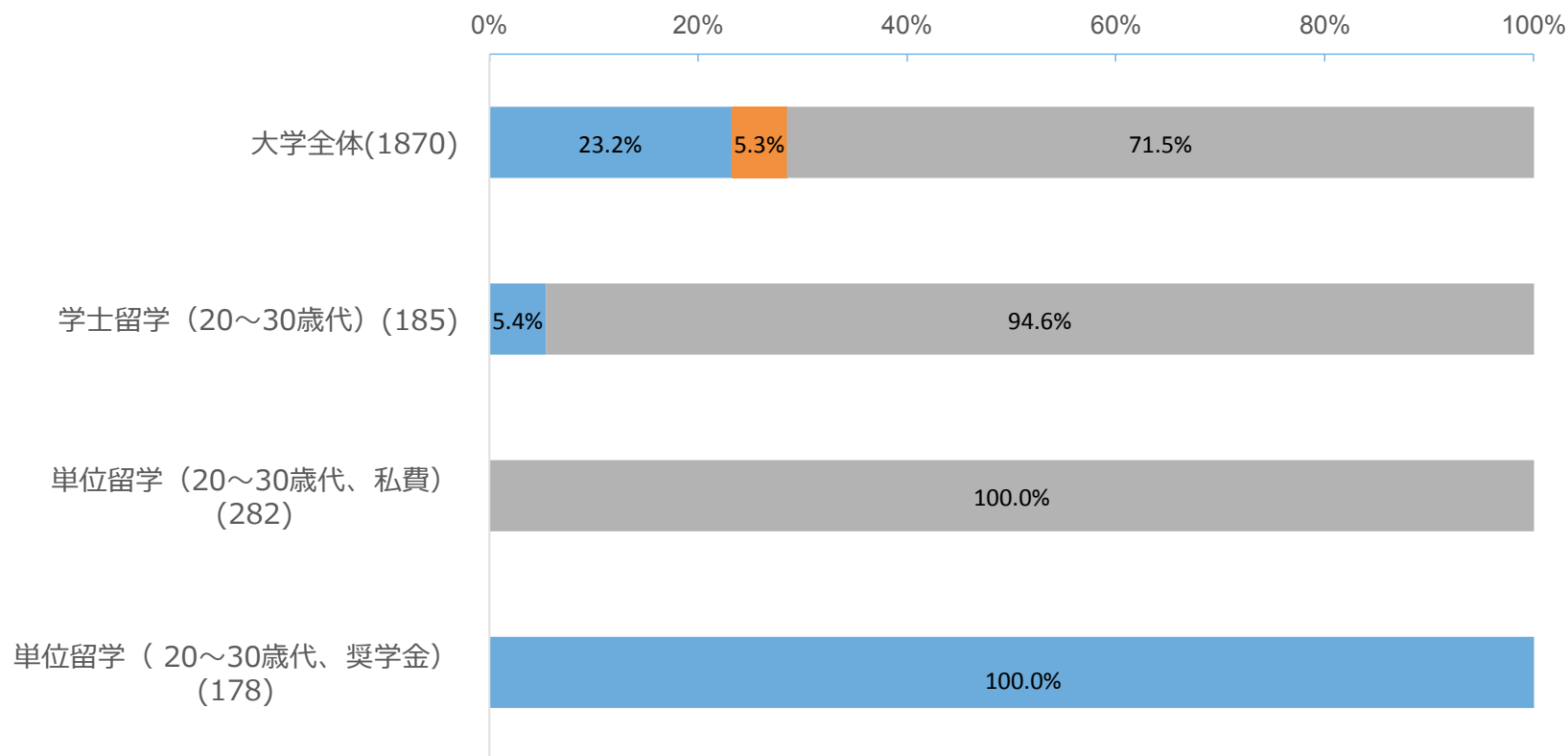


単位留学 (20~30歳代、奨学金) (178)



経費支弁方法 留学形態別

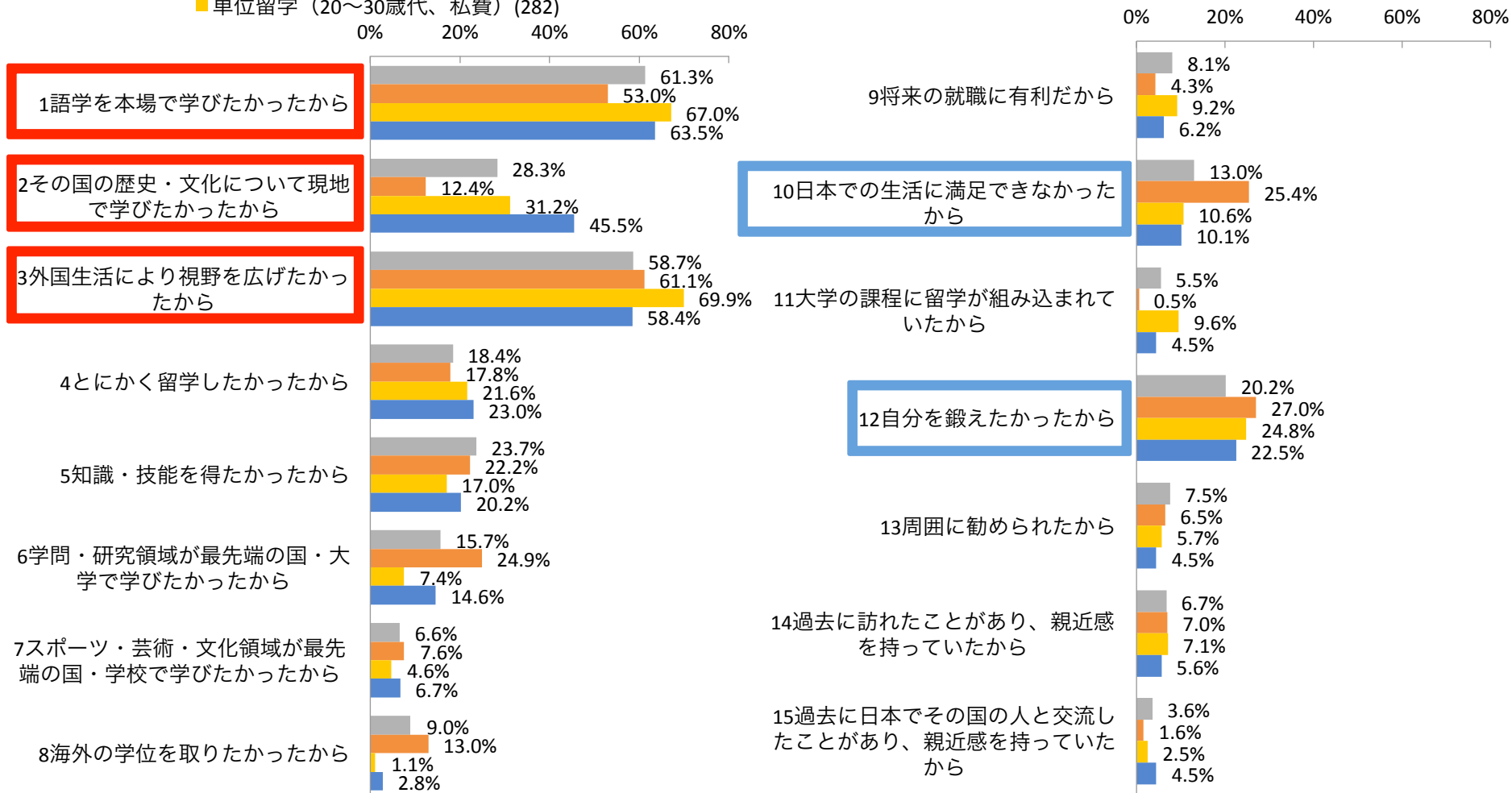
- 給付奨学金（海外の政府・大学・団体等の奨学金も含む）
- 勤務先からの援助
- 私費（貯金、家族等からの援助、留学のための教育ローンの利用も含む）



留学理由 留学形態別

語学・歴史や文化の学習 → 単位取得目的の学生のほうが高い割合
 日本での生活に満足できなかった、自分を鍛えたかった → 学位取得目的

■ 大学全体(1870)
 ■ 学士留学 (20~30歳代) (185)
 ■ 単位留学 (20~30歳代、私費) (282)



海外留学中の 苦勞に関する自己評価

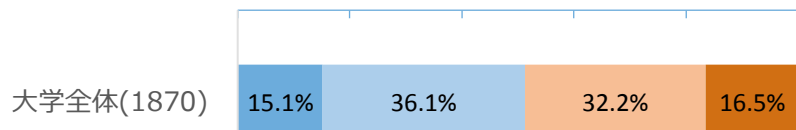
留学中の苦勞 ①留学形態別

学位取得を目的とした留学経験者のほうが、費用面で苦勞したと報告する傾向。

生活費や渡航費の工面での苦勞



0% 20% 40% 60% 80% 100%



学士留学 (20~30歳代) (185)



単位留学 (20~30歳代、私費) (282)



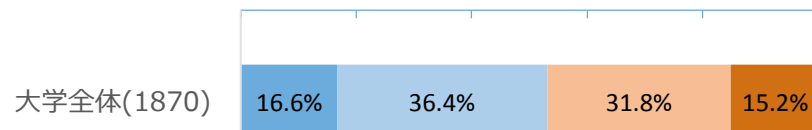
単位留学 (20~30歳代、奨学金) (178)



学費や研究費の工面での苦勞



0% 20% 40% 60% 80% 100%



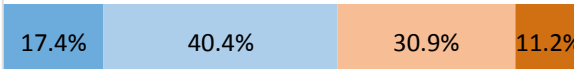
学士留学 (20~30歳代) (185)



単位留学 (20~30歳代、私費) (282)



単位留学 (20~30歳代、奨学金) (178)



留学中の苦勞 ①留学形態別

語学の苦勞は、学位取得・単位取得とともに同程度
 学業・研究面での苦勞は、学位取得目的の経験者のほうが苦
 勞を報告する傾向

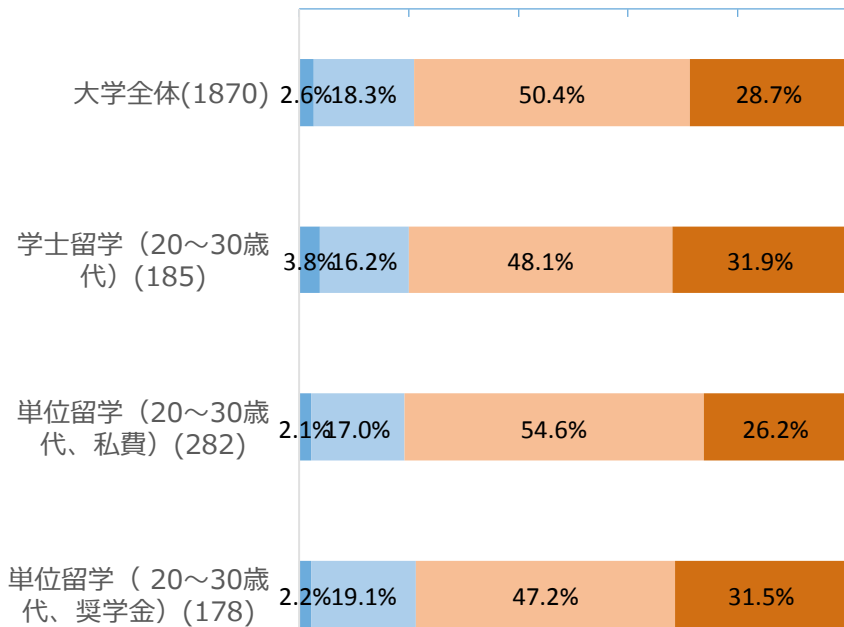
外国語の運用・習得

学業・研究面

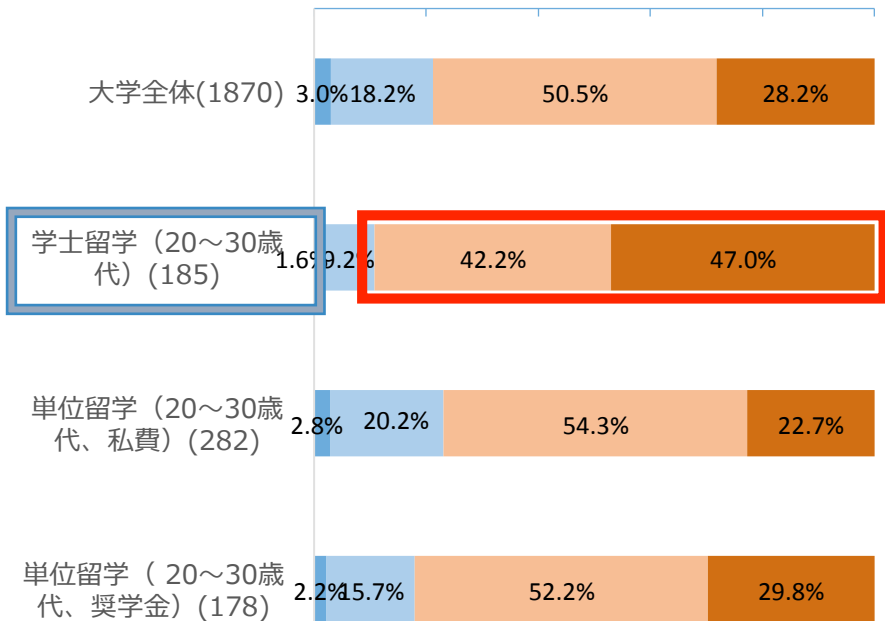
■ 全く苦勞しなかった ■ あまり苦勞しなかった
 ■ ある程度苦勞した ■ とても苦勞した

■ 全く苦勞しなかった ■ あまり苦勞しなかった
 ■ ある程度苦勞した ■ とても苦勞した

0% 20% 40% 60% 80% 100%



0% 20% 40% 60% 80% 100%

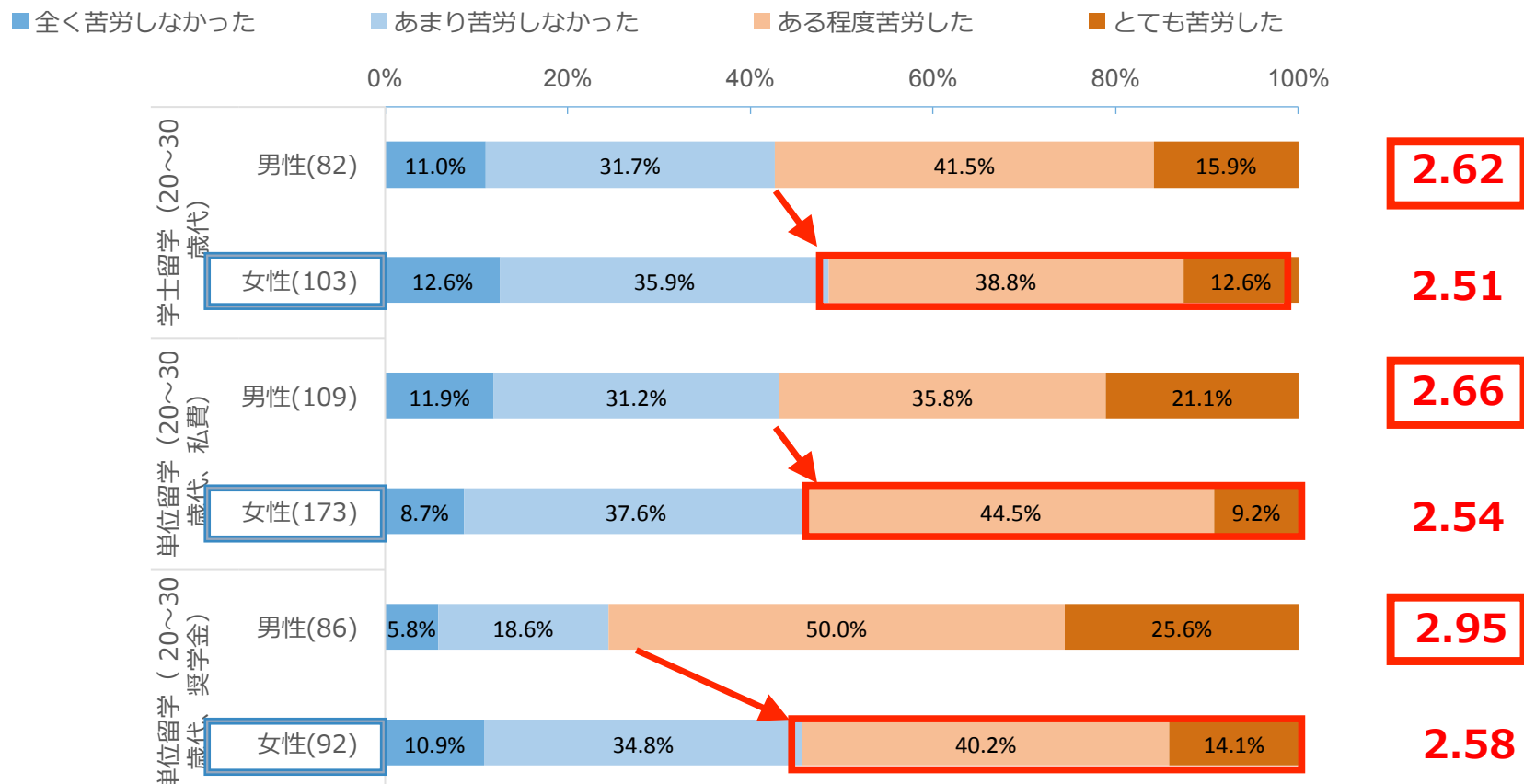


留学中の苦勞 ②男女別

留学中の苦勞について、異文化への適応や友人関係、教職員との関係で、男性の方が苦勞と感じる割合が高い

加重平均値：つよくそう思う = 4点、全くそう思わない1点で計算

異文化への適応



能力の向上に関する 海外留学経験の自己評価

能力の向上 ①留学形態別

- 学位留学のほうが単位留学よりも、能力の向上に関するほぼすべての項目において、自己評価における加重平均値が高い傾向

- 加重平均値：つよくそう思う = 4点、全くそう思わない1点で計算

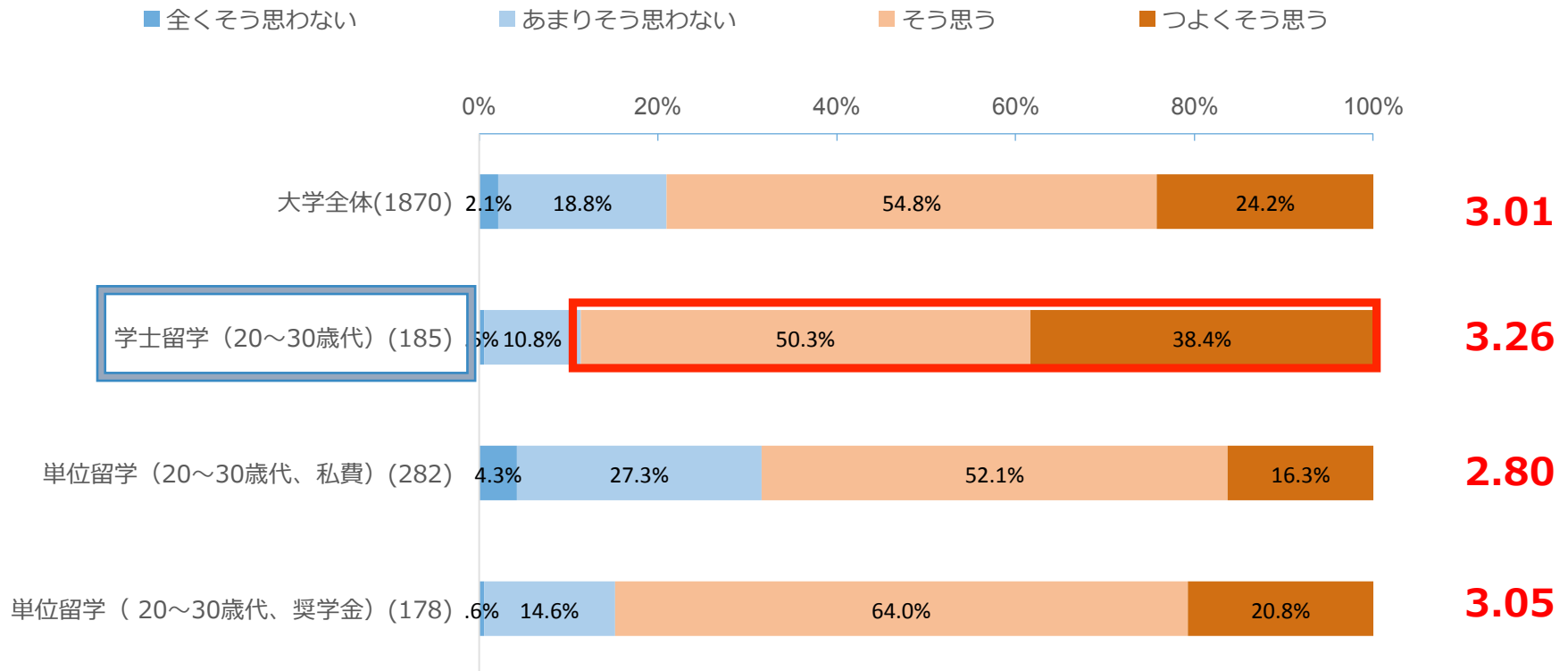
- 専門知識・技能、基礎学力・一般教養、外国語運用能力、コミュニケーション能力、留学先の社会・習慣・文化に関する知識、リーダーシップ、積極性・行動力、異文化に対応する能力、ストレス耐性、目的を達成する力、柔軟性、協調性、創造力、忍耐力、問題解決能力、批判的思考力、論理的思考力

- 差があまり見られない項目：社交性

⇒学位留学経験者のほうが、単位取得留学者よりも、全般的に能力の向上を実感している。

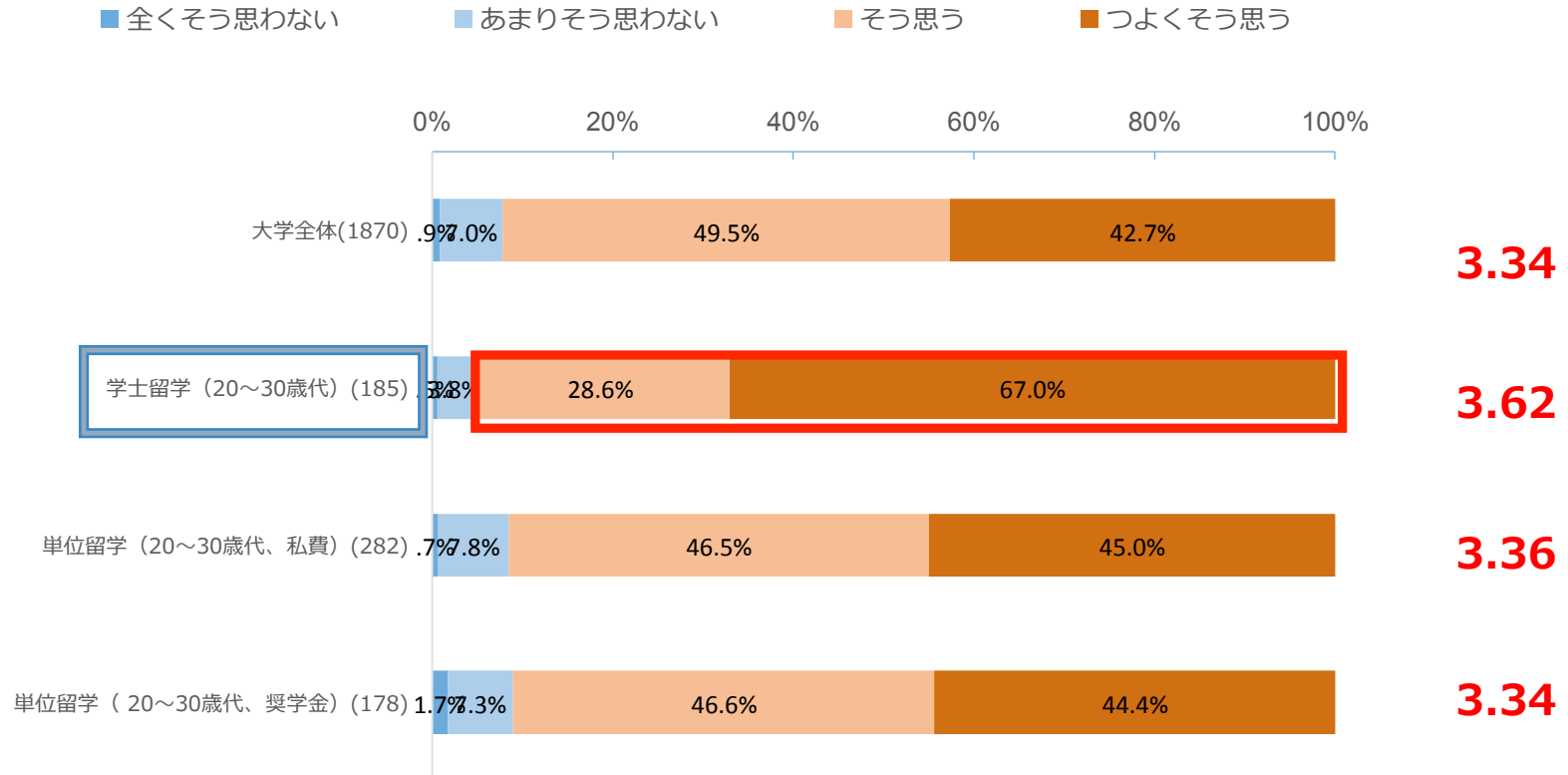
留学中の苦勞 ①留学形態別 例 1

専門知識・技能の習得



留学中の苦勞 ①留学形態別 例2

異文化に対応する力



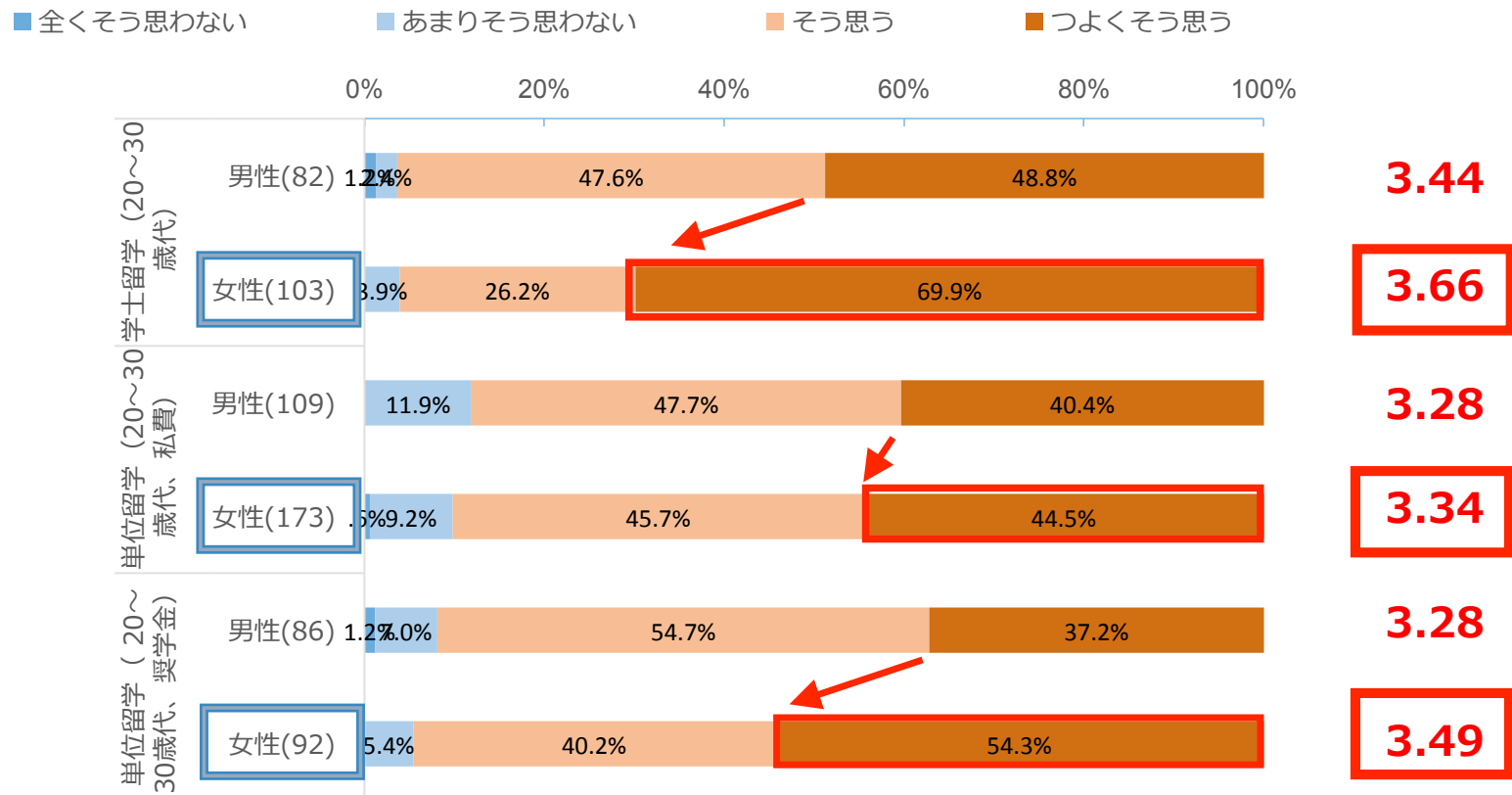
能力の向上 ②男女別

- 男女の自己評価に違いが見られる項目が存在
- 女性の方が自己評価が高い項目
 - 外国語運用能力、コミュニケーション能力、留学先の社会・慣習・文化に関する知識、異文化に対応する力、ストレス耐性、柔軟性の向上
- 男性の方が自己評価が高い項目
 - リーダーシップ、批判的思考力、論理的思考力の向上

⇒女性のほうが、現地での生活、異文化適応に関連した能力についての向上を実感する一方、男性のほうがリーダーシップや思考力などでの伸びを実感

能力の向上 ②男女別 例1

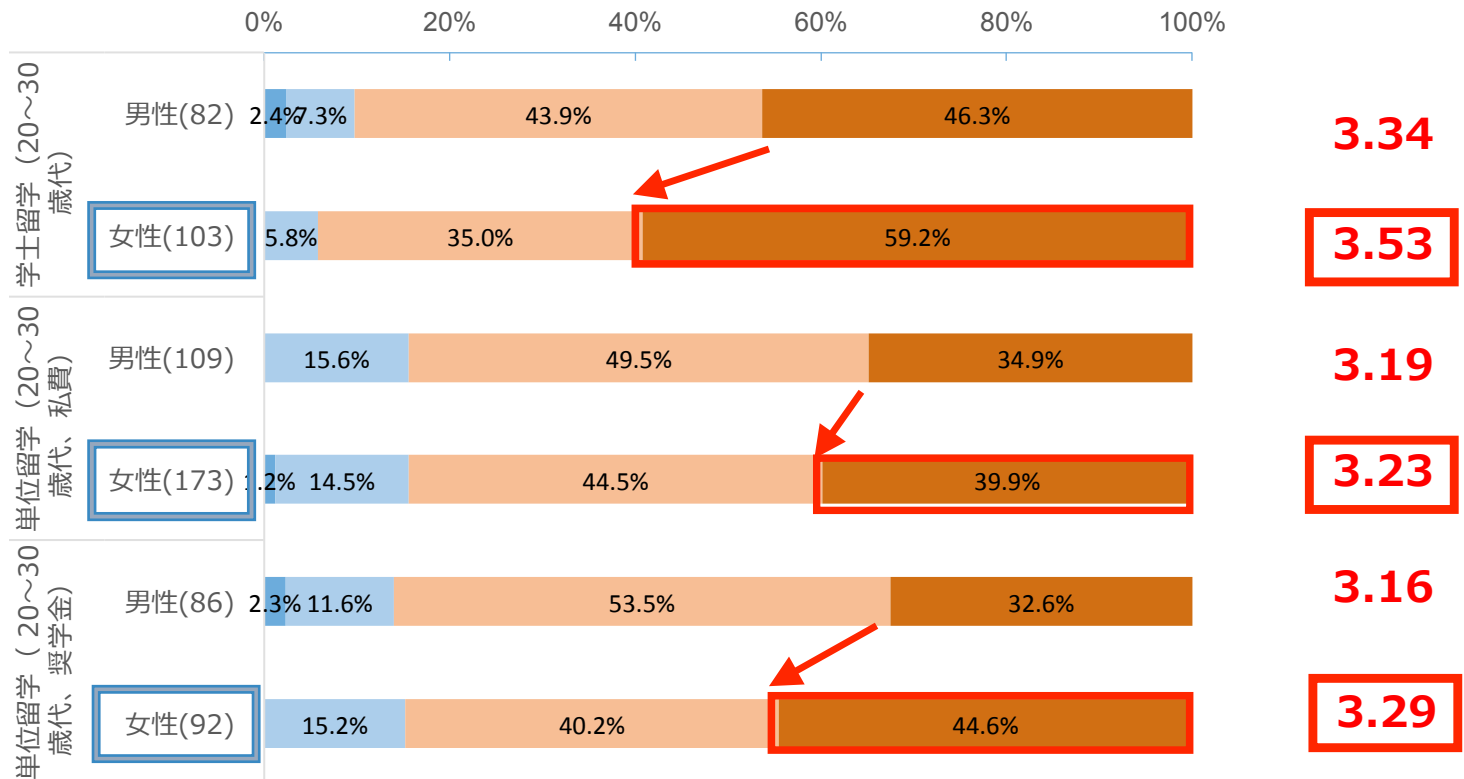
外国語運用能力



能力の向上 ②男女別 例2

コミュニケーション能力

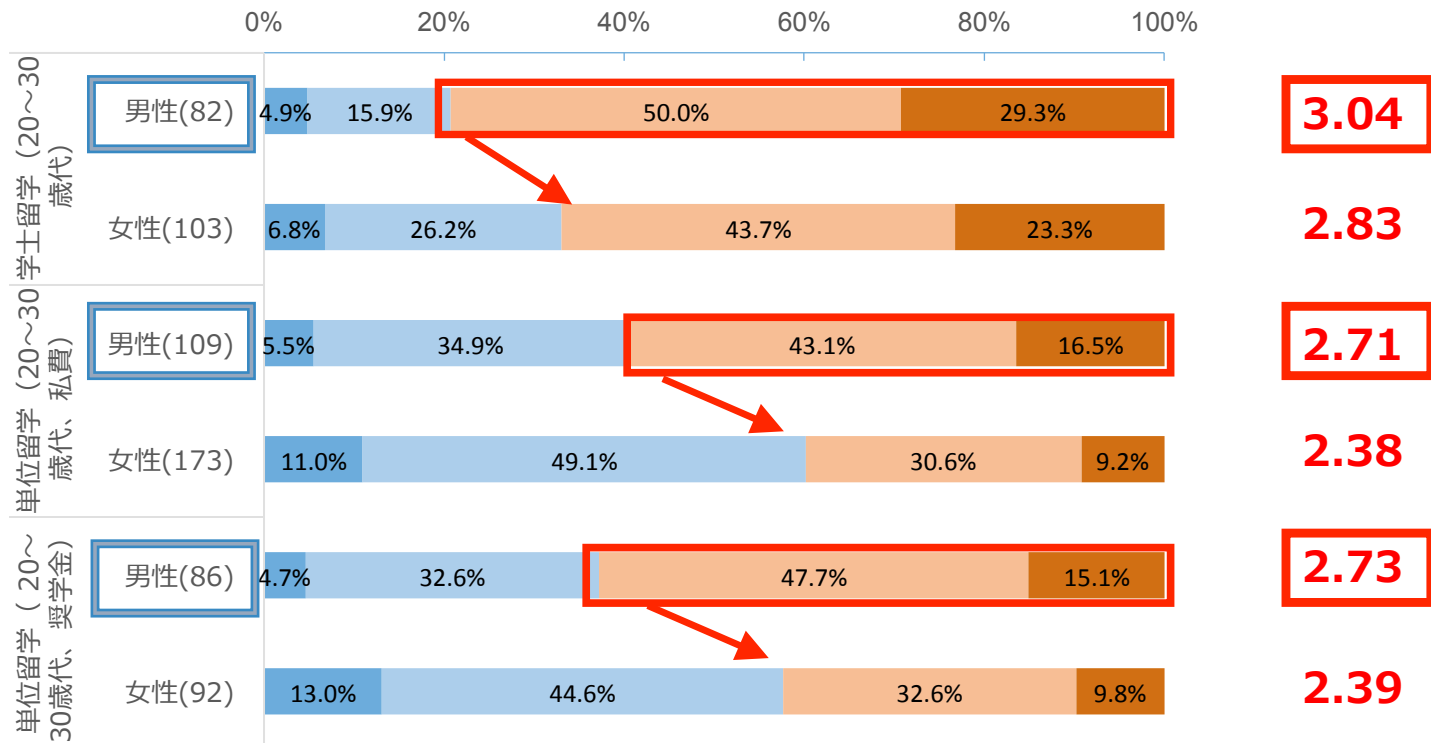
■ 全くそう思わない ■ あまりそう思わない ■ そう思う ■ つよくそう思う



能力の向上 ②男女別 例3

リーダーシップ

■ 全くそう思わない ■ あまりそう思わない ■ そう思う ■ つよくそう思う



キャリアに関する 海外留学経験の自己評価

採用時における留学経験の評価 ①留学形態別

学位留学経験者のほうが、留学経験や、語学力が採用時に評価されたと感じている。

留学経験

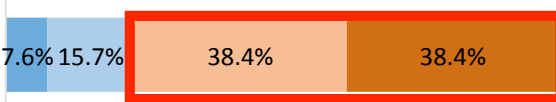
■ 全くそう思わない ■ あまりそう思わない ■ そう思う ■ つよくそう思う

0% 20% 40% 60% 80% 100%

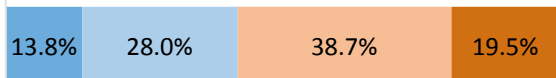
大学全体(1868)



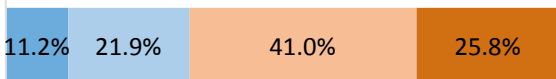
学士留学 (20~30歳代) (185)



単位留学 (20~30歳代、私費) (282)



単位留学 (20~30歳代、奨学金) (178)

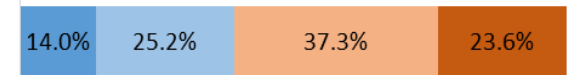


語学力

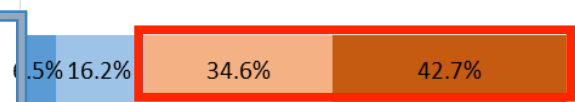
■ 全くそう思わない ■ あまりそう思わない ■ そう思う ■ つよくそう思う

0% 20% 40% 60% 80% 100%

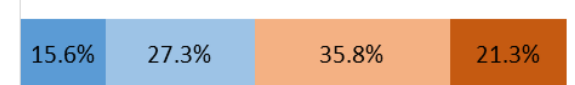
大学全体(1868)



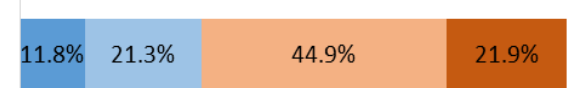
学士留学 (20~30歳代) (185)



単位留学 (20~30歳代、私費) (282)

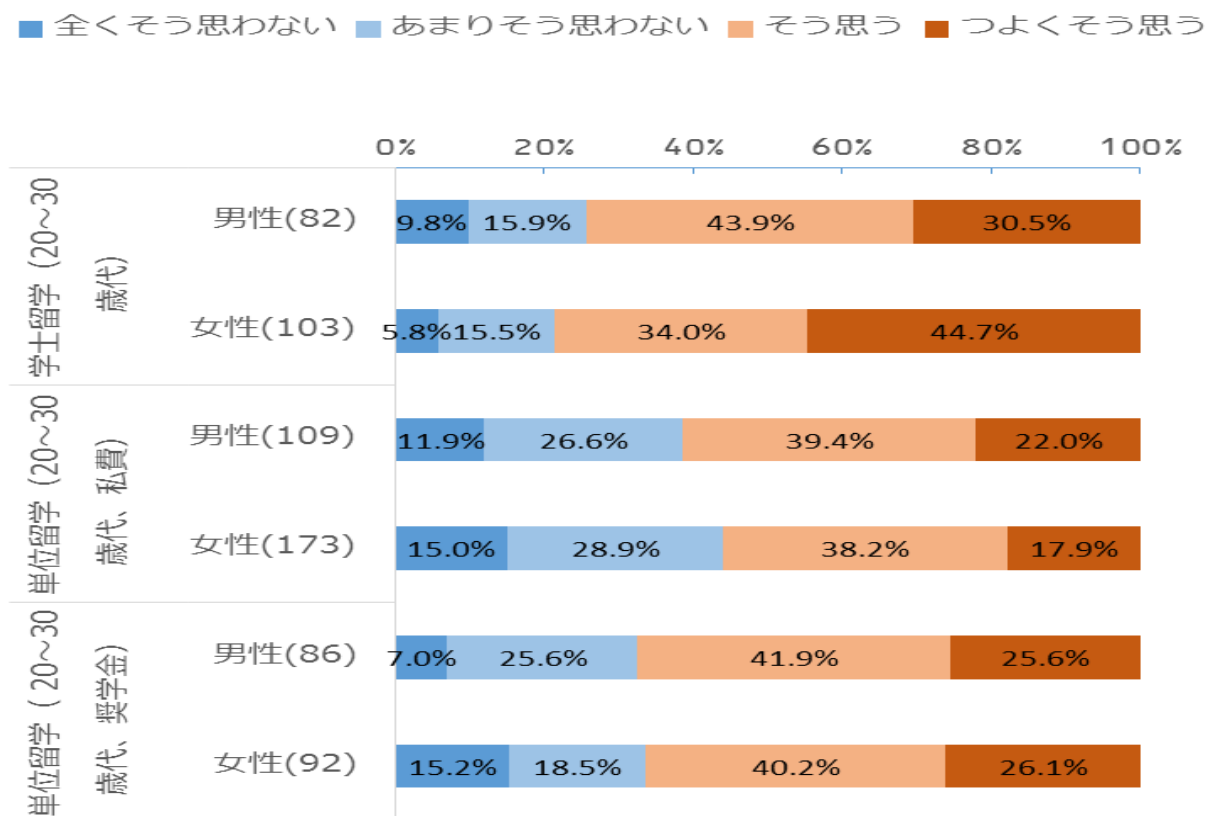


単位留学 (20~30歳代、奨学金) (178)



採用時における留学経験の評価 ②男女別

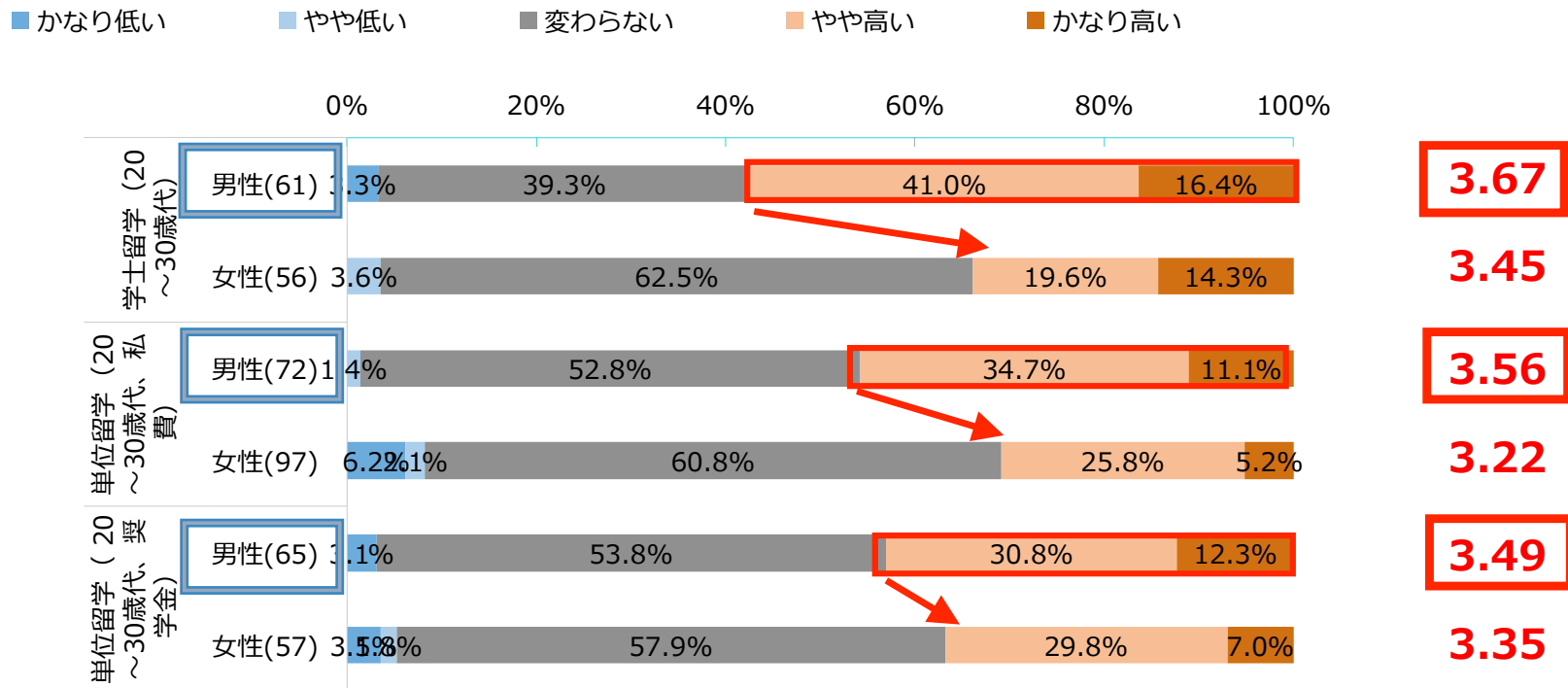
学位留学では女性の方が、また、単位留学では男性の方が採用時に留学経験が高く評価されたと回答する傾向。ただし、男女差はそれほど大きくない。



未経験者と比較したときのキャリア上の 処遇の違い ②男女別

担当する職務の範囲、担当する仕事量、海外関連業務担当の頻度、海外出張の頻度において、「変わらない」が多くを占める一方、男性の方が女性よりも多い・高いと報告する傾向がある。

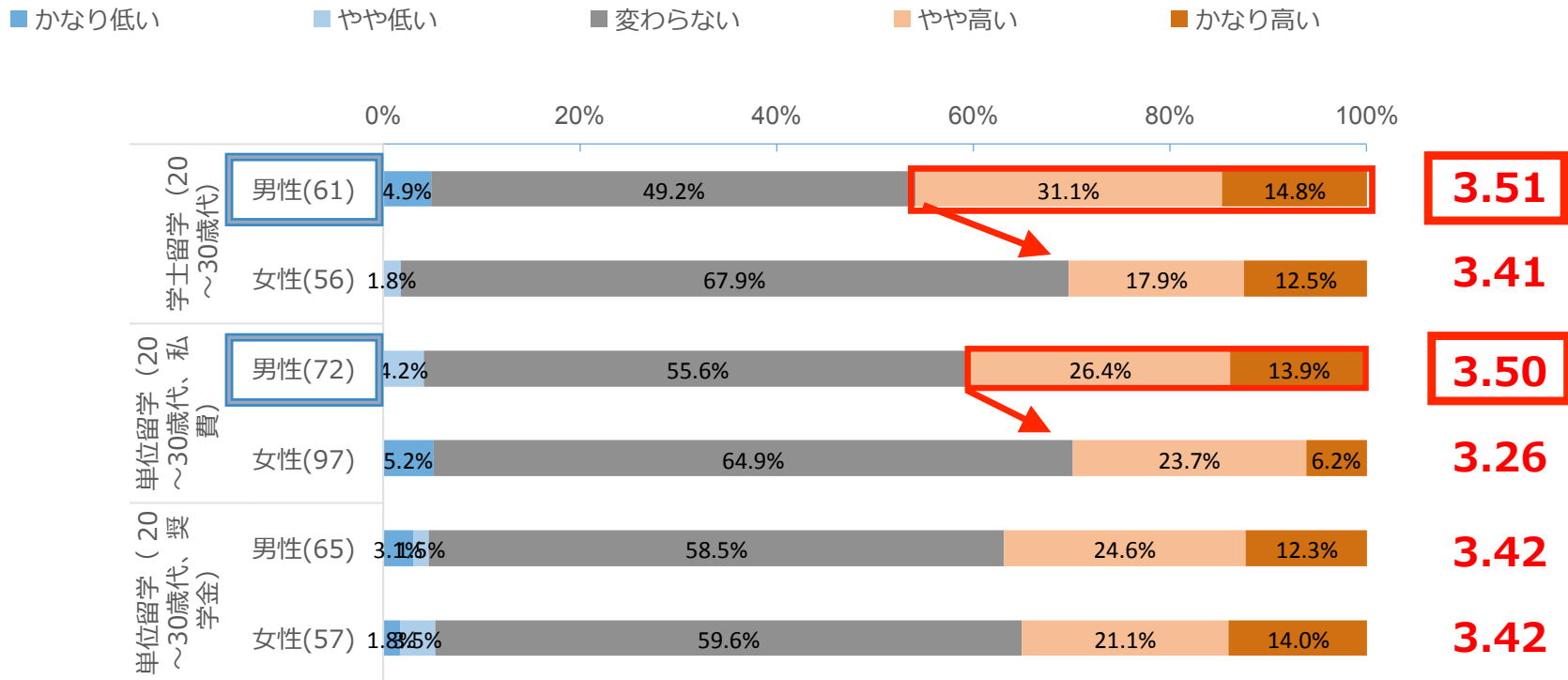
処遇の違い：担当する職務の範囲



未経験者と比較したときのキャリア上の 処遇の違い ②男女別

担当する職務の範囲、担当する仕事量、海外関連業務担当の頻度、海外出張の頻度において、「変わらない」が多くを占める一方、男性の方が女性よりも多い・高いと報告する傾向がある。

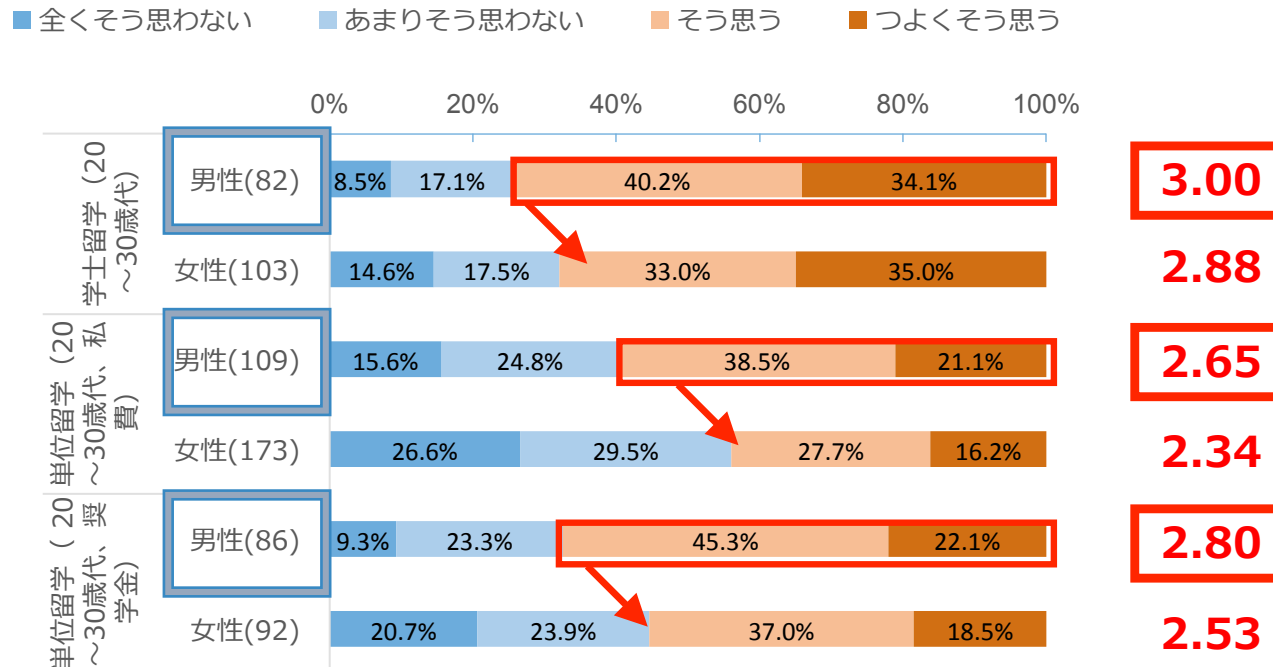
処遇の違い：担当する仕事量



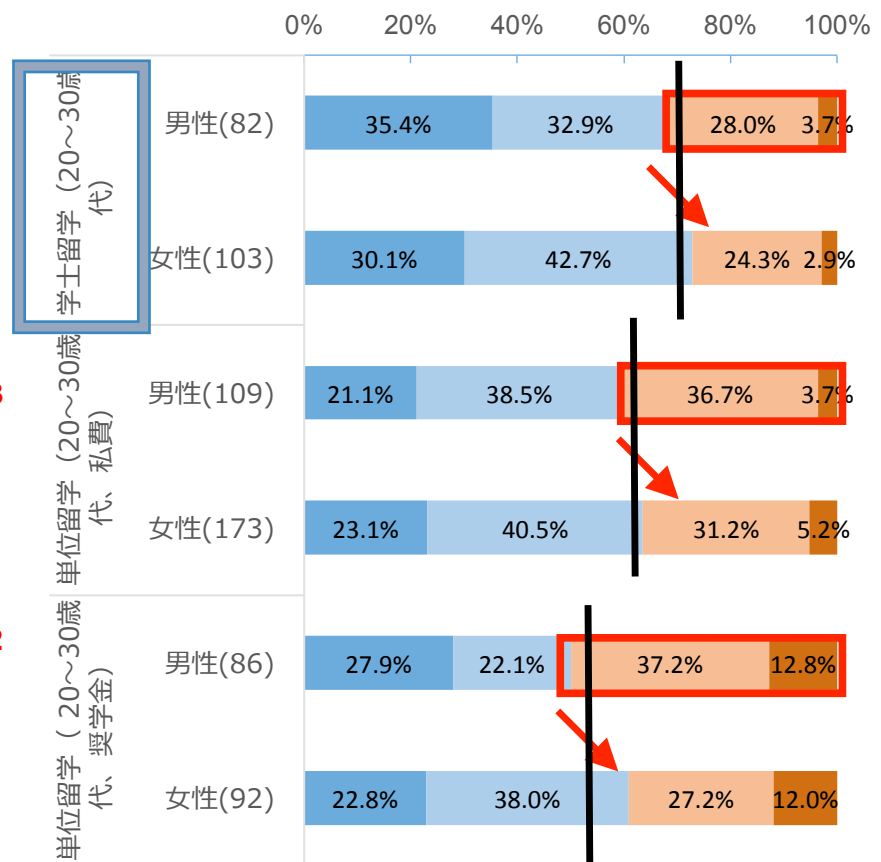
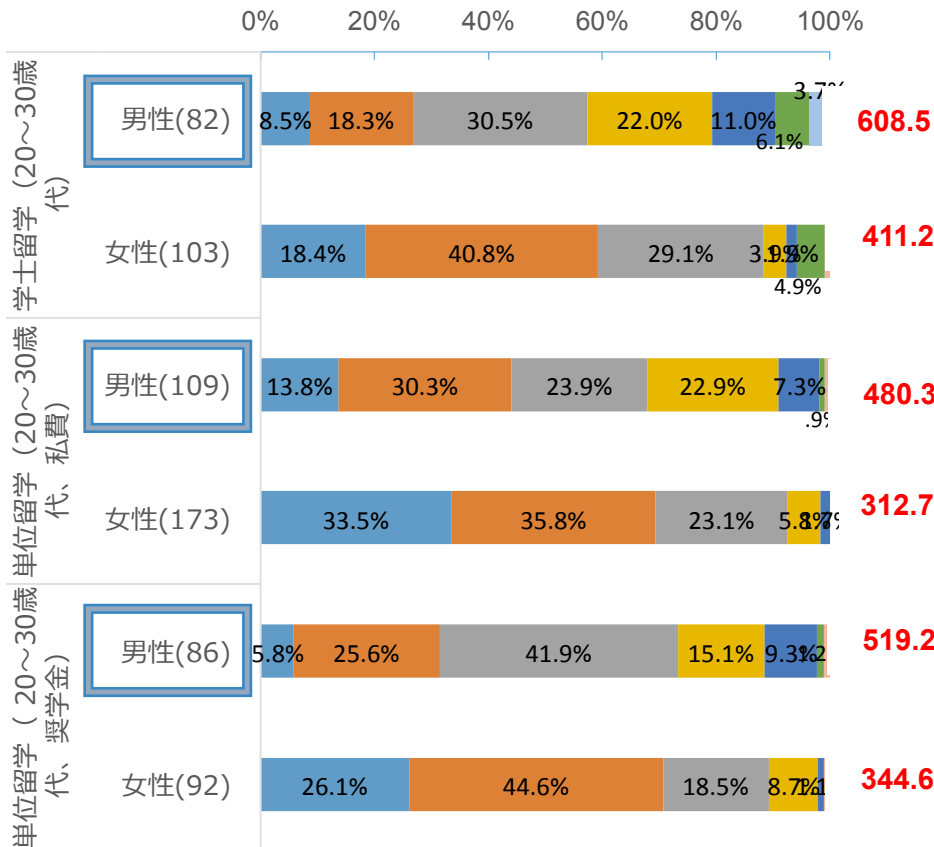
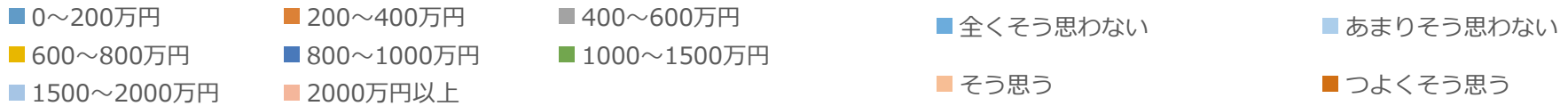
キャリアへの影響 ②男女別

語学の使用頻度, 留学で習得した知識とスキルの活用, 起業意欲の高さにおいて、全てのセグメントで、男性は女性より留学効果を実感している傾向がある。

現在の仕事において留学で学んだ知識やスキルを使っているか



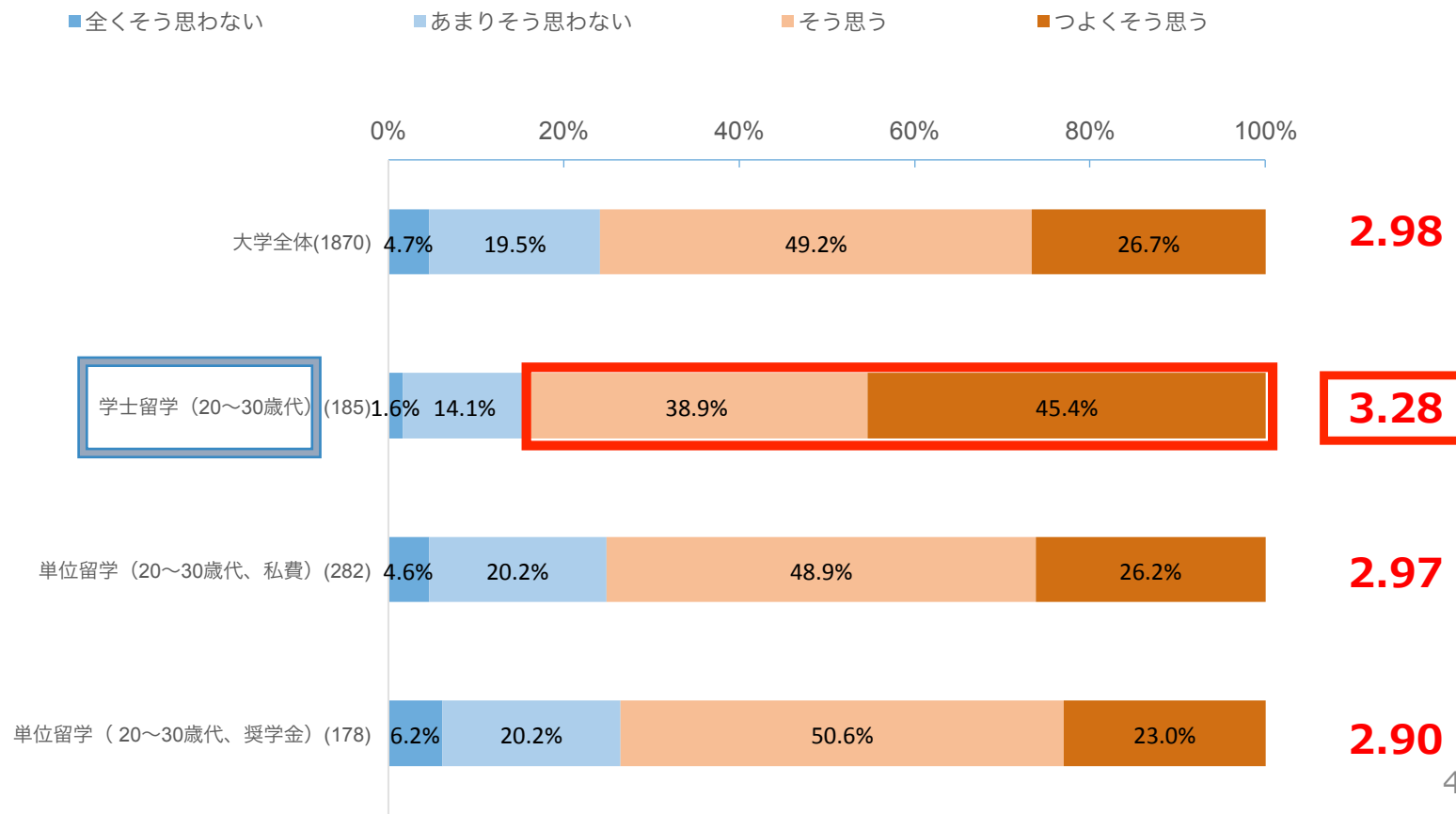
現在の年収と収入に対する満足度



人生における満足度

留学経験に対する満足 ①留学形態別

学位取得・単位取得目的にかかわらず、全体として留学経験に対する満足は高い。中でも、学位取得目的の留学経験者の方が満足度が高い傾向。



人生・留学経験に対する満足度 ②男女別

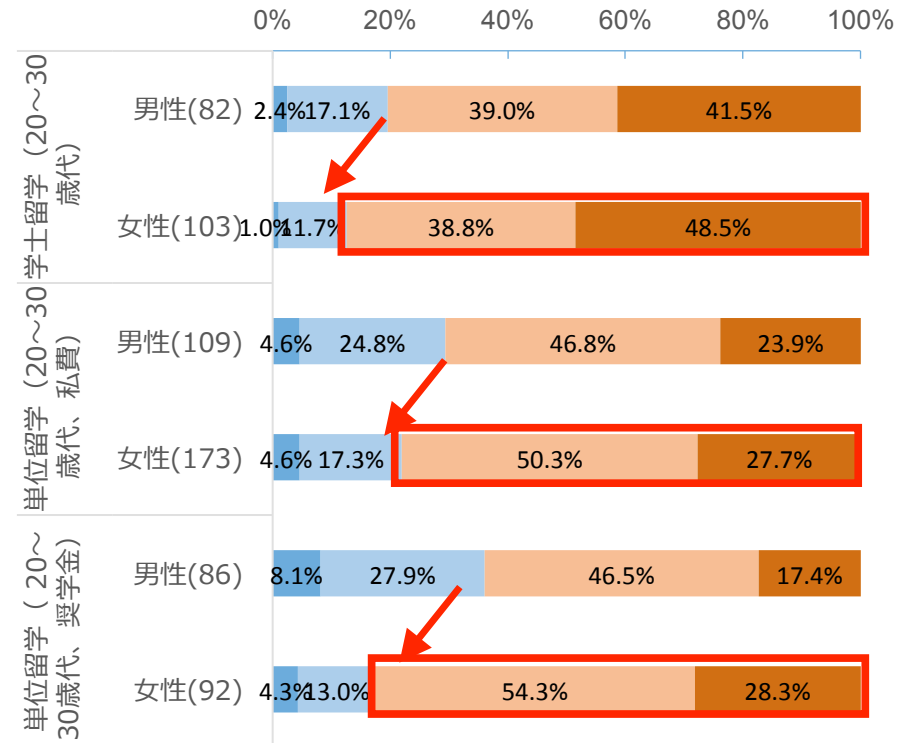
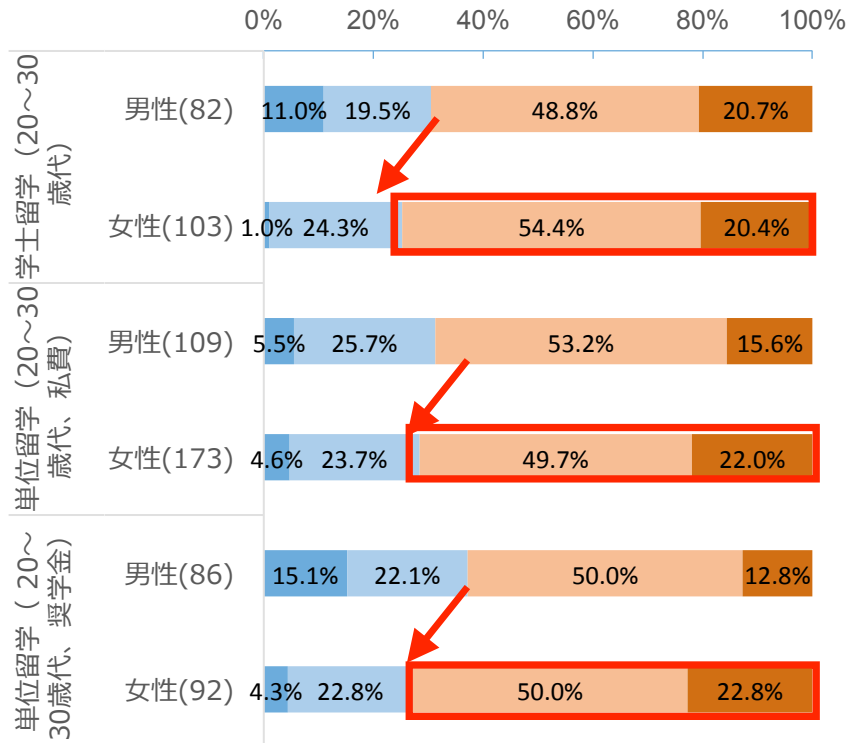
全てのセグメントで、女性は男性より留学経験に対して・人生に対して高い満足度を報告している傾向

人生に対する満足度

留学経験に対する満足度

■ 全くそう思わない ■ あまりそう思わない ■ そう思う ■ つよくそう思う

■ 全くそう思わない ■ あまりそう思わない ■ そう思う ■ つよくそう思う



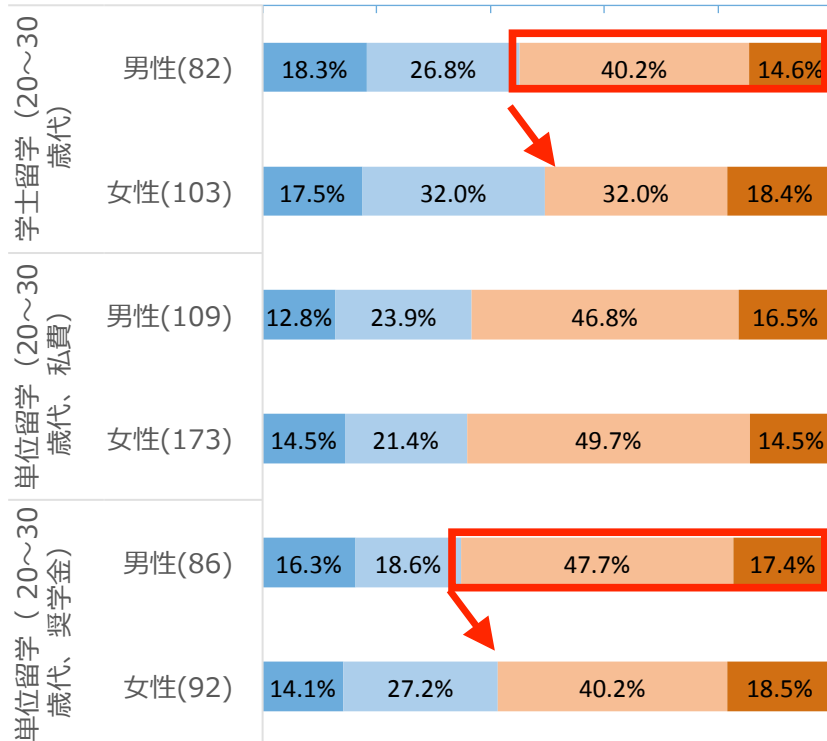
仕事・収入に対する満足度 ②男女別

男性は女性より現在の仕事・収入に関して高い満足度を報告している傾向

現在の仕事に関する満足度

■ 全くそう思わない ■ あまりそう思わない ■ そう思う ■ つよくそう思う

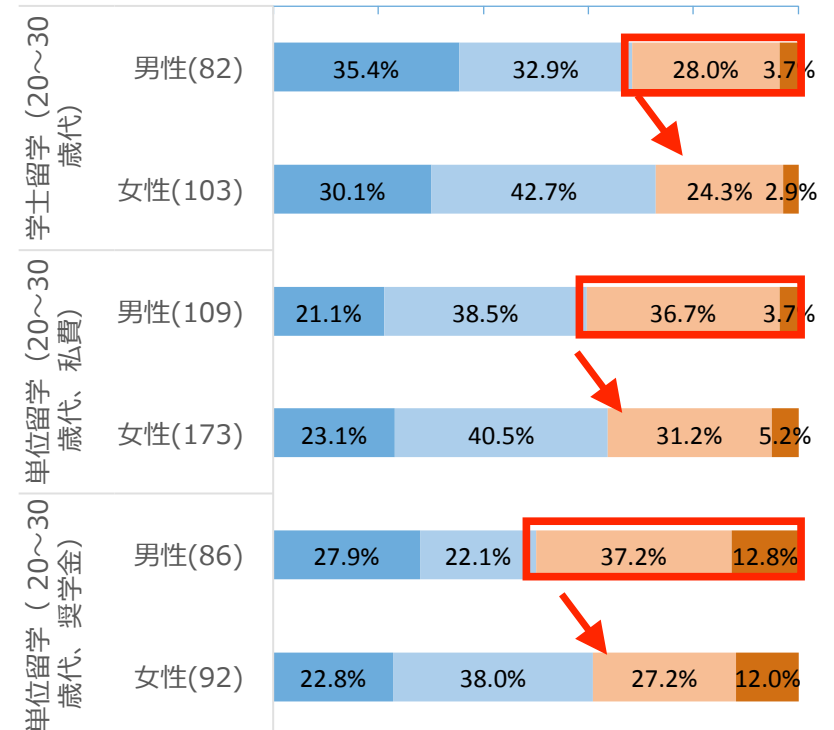
0% 20% 40% 60% 80% 100%



収入に関する満足度

■ 全くそう思わない ■ あまりそう思わない ■ そう思う ■ つよくそう思う

0% 20% 40% 60% 80% 100%



まとめ ①留学形態別

- 学位取得目的・単位取得目的に関わらず、海外留学経験は、様々な能力の向上、採用時の評価、キャリア上での影響、人生の満足度等に肯定的であったと評価する傾向がうかがえる。
- 学位取得目的の留学者の方が、留学を通じた様々な能力の向上について、より強く実感しているとともに、採用時にその留学経験が評価されたと感じ、採用後にも、留学経験を業務上で活用していると実感している傾向がうかがえ、留学経験に対する満足度も高かった。
- 学位取得目的の留学者は、留学時の費用面（学費・生活費等）での苦勞を報告しており、就職後の費用対効果をより意識しているのではないか。そのためか、収入に対する満足度においては、シビアな回答をしている。

まとめ ②男女別

- 学位・単位取得留学とともに、女性の方が、男性よりも苦勞ととらえる項目が男性に比べて少なく、女性の異文化への適応等などに関する適性を示唆しているか？
- 学位取得、単位取得に関わらず、現在の年収において、男女差がはっきり見られた。留学の有無にかかわらず、日本社会における男女の収入に差が見られることは変わらない。
- 仕事、収入に関する満足度は男性が高い一方、留学経験、人生における満足度は、女性の方が高い。

今後の課題

- 統計分析の実施
- セグメント別分析
- コントロールグループ（留学経験のない社会人を対象とした調査）との比較分析
- 留学経験者への質的調査の実施
- 実施済みの雇用主調査との分析
- 本研究をどう教育現場に生かせるのか

本科研の成果の発信方法

留学のすすめ.JP

(<http://ryugaku-susume.jp/>)

先行研究文献リストの公開、アンケート調査の結果、学会発表等のPPTの公開を行う予定。